平成２８年度　第２回南砺市協働のまちづくり推進会議次第

と　き　　平成 28 年１２月5日（月）午後７時～
ところ　　アスモ　大会議室

開　会

１．委員長あいさつ

２．付議事項

（１）「提言書（案）」について

（２）第３回協働のまちづくり推進会議について
日時：平成２９年１月１３日（金）午後７時～
場所：南砺市役所福野庁舎２階講堂にて
内容：提言書の提出、市長と意見交換

３．その他

閉　会

●平成２８年度　第１回協働のまちづくり推進会議（H28.10.31）の要旨

課題	意見
・今後の方向性について ・市長との対話は可能か ・内容を１つ１つ検討するのか、いくつかにポイントを絞るのか。	・運営委員会を開催し素案をつくる。そして１２月の推進会議で案を紹介し委員の意見を聞く。最終的に１月の最終の推進会議で市長に再提言する。 ・市長への再提言へ向けて提言内容をいくつかの要点に絞るべきである。
・諮問について	・市長から推進会議への諮問をいただきたい。
・コーディネーターのあり方について ・コーディネーターの設置提言について委員の意見に温度差がある。 ・地域づくり支援員について	・コーディネーターの必要性については、具体的に各地域において問題が発生しないと、あるいは必要性を感じないと配置しても機能しない。 ・協働をすすめるための専門家であり、うまく進まない時にコーディネーターが必要。専門のコーディネーターでは専門範囲が狭くなる。地域の福祉や土木や子育てなど全てを知っている人はいない。 ・コーディネーターについて市へ説明不足であり、運営委員会で再び審議したい。 ・地域づくり支援員は自治振興会に貼り付けであり横の繋がりが無い。横に繋がるための支援が必要。地域づくり支援員で十分な地域もある。
・政策の企画段階でのパブリックコメント提言について	・コーディネーターの提言と同様に、パブリックコメントの提言も漠然としていた。提言を受ける側が理解しやすい提言とするべき。
・次期の推進会議へ向けて	・方向性を出して次期推進会議の委員へバトンタッチするべき。

●第４回および第５回運営委員会の要旨

課題	意見
・今後の方向性について	・市長のマニュフェストに「総働」の言葉が出た。「総働」に向けてどうすれば良いか検討するよう、市長から推進会議へ諮問があると良い。「総働」へ向けて推進会議で協議し、市へ提案したい。 ・市民はまちづくりの意識をまだそれほど持っていない。来年１年かけて、学びの場（まちづくりの方向性を学ぶ場）を設けてほしい。 市民に教える必要があり、それをすすめる基礎となる勉強会を開催してほしい。（一般市民、塾生、推進会議委員などを対象） ・お祭り型から現実的なまちづくりへ、地に足を付けた、課題を見つけ解決をしていく、そんなコミュニティをつくるのがまちづくりである。
・コーディネーターについて	・コーディネーターは養成してできるものではなく、生まれ持った感性が無いとできないと思う。 ・塾はコーディネーター養成のための事業ではないが、７８塾生や５０塾生の OB・OG がまちづくりに参加していけるようもっていきたい。
・市報への掲載について	・市の広報に毎月「まちづくり推進会議」のコーナーを設け、市民がまちづくりの主体であること、推進会議で話し合われている内容等を伝えたい。
・推進会議の規則改正について	・「推進会議は、年度当初に年次計画を作成し、定期的に開催するものとする。」を追加してほしい。

●平成２８年　南砺市協働のまちづくり推進会議の経緯

	経　　過	備　　考
H28.9.28	第１回運営委員会開催	・提言に対する回答の説明
H28.10.3	第２回運営委員会開催	・提言に対する回答への意見交換
H28.10.26	第３回運営委員会開催	・提言に対する回答への意見集約 ・今後の方向の検討
H28.10.31	第１回協働のまちづくり推進会議開催	・提言に対する回答への意見の取りまとめ結果を公表 ・意見収集
H28.11.14	第４回運営委員会開催	・市への（新）提言内容を協議 ・今後の方向性を協議
H28.11.20	第５回運営委員会開催	〃
H28.12.5	**第２回協働のまちづくり推進会議開催**	**市への提言内容について決定**
H29.1.13	第３回協働のまちづくり推進会議開催	提言書提出、市長と意見交換
H29.1～2 月	協働のまちづくり庁内推進本部開催	提言に対しての回答を協議

※赤字は今後の予定

平成２８年１月１３日（提出予定）

南砺市長　田中　幹夫　殿

南砺市協働のまちづくり推進会議

委員長　　林　　則　雄

提　言　書（案）

平成２４年７月に施行された南砺市まちづくり基本条例は、わたしたちが、このまちに「生まれてきてよかった」、「住んでいてよかった」、「これからも住み続けたい」と思えるまちになることを願い、市民が主体のまちづくりが進められるよう定められたものである。

条例施行より４年６カ月が経過し、当推進会議では、条例の運用や推進状況を確認し検討してきた。また、今年１月には、当推進会議が提出した提言書に対して市より回答を受け、その内容について協議してきた。その結果、市民や行政においてまだまだ協働に対する意識に差があり、全体的に底上げが必要であることが感じられた。

また、市民や地域、各種団体等、それぞれが課題を見つけ解決方法を考える仕組みをつくり、一緒に行動できる関係をつくるのがこれからのまちづくりであると考え、今回推進会議として提言する。

市長におかれましては、本提言を踏まえ、協働のまちづくりの更なる推進に努められたい。

■提言

１．「総働」および「小規模多機能自治」の検討について

南砺市まちづくり基本条例においては、協働のまちづくりを推進するにあたり、市民は、単に行政サービスの受け手にとどまることなく、自らがまちづくりの主体として市政に参画して自らの発言や行動に責任を持つことが求められている。

しかしながら、超少子高齢化の時代を迎え、人口減少問題へ対応し、持続可能なまちづくりを推進するには、地域資源や人材を活用して地域の魅力を高める必要があり、そのためには、地域の課題や将来を住民自らが考える住民総参加が必要である。

島根県雲南市が取り組む、「総働」および「小規模多機能自治」が注目され、南砺市自治振興会連合会においても、これからの南砺市のまちづくりの仕組みとして検討中と聞いている。そのためには、市の育成した人材をまちづくりに参画させることや、若者や女性などの意見を活かすための地域組織の改革、そして市民の意識の向上がより求められている。

そこで、市民および市の協働のまちづくりをより一層推進し、市長が目指す「協働」から「総働」へ、「小規模多機能自治」を進めるための方法を検討する場を考えることを求めたい。

２．勉強会の開催について

平成２９年度において、七転び八起き塾生、五十の手習い塾生、まちづくり推進会議委員、その他一般市民を対象とした「総働」に向けての勉強会を開催し、市や南砺市自治振興会連合会への意見の提供、および市民へ意識を浸透させる場を設けることを求めたい。

３．周知・広報について

南砺市まちづくり基本条例においては、協働のまちづくりを推進するにあたり、市民は、単に行政サービスの受け手にとどまることなく、自らがまちづくりの主体として市政に参画して自らの発言や行動に責任を持つことが求められている。

しかしながら、市民がまちづくりの主体であるという意識と行動のレベルはいまだ高くない状況となっている。よって、協働のまちづくりに関する理念や情報を、継続的に市民に問いかける場として、推進会議に広報部会を設置し、市の広報に「まちづくり推進会議」のコーナーをつくり、推進会議で話し合われている内容を伝えることを求めたい。